

介護のなかま

2009年10月30日
【発行】生協労連
介護部会準備会事務局
NO. 25
電話：03-3408-0067
fax：03-3408-8955
メール：qyg03057@nifty.ne.jp

介護労働者の待遇改善と よりよい介護制度の改善を願い 全国から110人がつどう



第7回介護にはたらくなかまの全国交流学習交流会が、全労連など11団体の実行委員会主催で2009年10月18日(日)、東医健保会館(東京・信濃町)で開催されました。昨年までのヘルパー集会から名称を変え、全体で19団体17都道府県組織から110人、そのうち生協労連のなかまは18人(みやぎ2、ネット2、ちば2、かながわ3、ながの、あいち2、ひろしま、エフ2、本部3)参加。

午前中は4つの分科会にわかれ、学習や交流を深めました。

	名称	参加人数
第1分科会	介護制度・報酬改定の経過と新制度	22人
第2分科会	処遇改善と、なかまづくりの交流	約30人
第3分科会	講座1「感染症とその対策」	約20人
第4分科会	介護労働者のメンタルヘルス対策	約30人

午後の全体会では、冒頭で小部正春弁護士から「働き続けら



れる介護労働を確立するために」と題した講演がありました。全労連の提言作りに参加し、「直行直帰型の廃止」や「最低賃金月額20万円の保障」など10のポイントについて話がありました。基調報告では、報酬改定や交付金などはこれまでの運動の成果、引き続き民主党がマニフェストに掲げている4万円の処遇改善を求めようと提起しました。特別発言では、労働者、利用者、事業主の立場から、それぞれ「もっと改善が必要!」との訴えがあり、フロア発言では個人加盟労組を結成したなど9人が発言しました。コープながのの金子さんは「はじめて参加したが全国から報告を聞き、よりよい制度の改善をめざしていきたい」と発言しました。



介護保険の抜本的見直しでイキイキとはたらき続けられる介護職場を作ろう…。

アピールを提案する棚木さん(コープ福祉会)

マニフェストどおり

月4万円の賃上げを！

10.19 厚労省交渉

10月19日(月)、全労連などの11団体でつくる実行委員会約30人は、政権交代をうけ、「介護保険制度の充実と介護労働者の処遇改善にむけた緊急要求」で厚労省老健局および安定局と交渉をおこないました。



要求内容は、介護職員と介護現場の労働者の賃金底上げを利用者の負担なしに早期に実現すること、介護職員処遇改善交付金・介護拠点整備対策の期限撤廃と全職種・事業所への拡大、10月1日から実施予定の新認定制度全体を検証し問題点を改善することなど、5項目です。

厚労省老健局は、長妻厚労大臣が処遇改善交付金は確実に実施することと、2011年の期限終了後も処遇改善について検討すると明言したと答えました。あわせて、交付金の申請事業所数が48%と低いことをうけ、交付金の申請受付を12月までのばし(10月まで遡って交付)、100%をめざしたいと答えました。実行委員会側は、交付金の対象者が介護労働者に限定していること、期限後の2011年以降の方向性があいまいなこと、利用者の負担につながることから、申請しにくい制度であることを訴えました。厚労省側からは、財源に限りがあり全産業

のなかでも低い介護労働者に限定したこと、2011年以降も処遇改善について検討すると大臣が明言したこと、周知徹底をはかりすべての事業主が申請するようになりたいとくりかえし強調しました。処遇改善の実態調査については調査票を配布中とのことでした。実行委員会側は、介護分野の正規労働者の賃金は全産業平均と比べて10万円も低い実態にあり、緊急対策ではなく抜本的な介護保険制度の改善で処遇改善が必要と強調し、交渉を終えました。



2009年度生協労連

介護部会準備会第1回世話人会議報告

10月17日(土) 13~18

生協労連会議室

参加13人(1人欠席)

*世話人の交代と新委員の確認

コープ福祉会桑島ひろ子さん

生協ひろしま 黒川哲也さん

エフコープ 山本陽子さん

*「介護職員処遇改善交付金」について

各単協のとりくみ状況について話し合いました。

*介護交流会の日程と開催地

5月15日(土)~16日(日)

神奈川県を予定

*全国交流会&厚労省交渉について

参加分科会をきめ交渉内容について話し合いました。